

1996年3月13日第3種郵便物認可 1997年1月13日発行(第2・4月曜日発行)

News Source of Educational Audiology

会員の誌代は会費に含まれています

聴能情報誌

みみだより

第315号

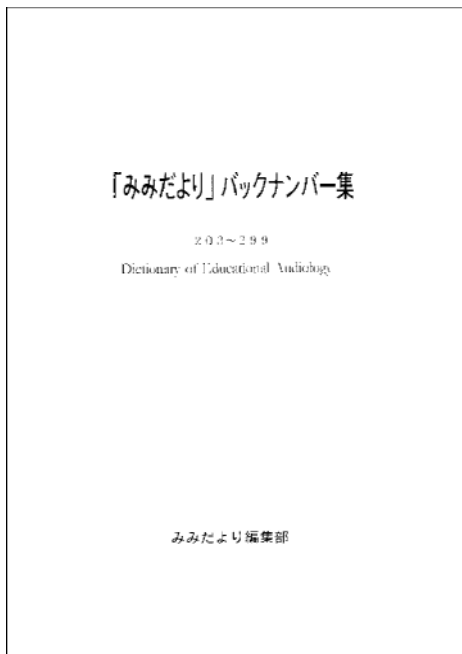
第3巻

通巻399号

編集・発行人：みみだより会、立入 哉 〒300-11 茨城県稲敷郡阿見町荒川本郷2150-1-1-203 電話：0298-41-7069 FAX：0298-41-5682

「みみだより10年目に向かって!」、今年もよろしくお願ひ申し上げます。

今年4月をもちまして、「みみだより」は発刊10年目を迎えることとなります。



「みみだより」バックナンバー集が できました。

203~299号を収録
1994年1月~1996年6月発行分
B5サイズ、492ページ
索引付き、400部限定

1冊2,800円

(送料・発送アルバイト代、代金振込料が含まれた総計金額です)

なお、200号までのバックナンバーは、希望が少なかつたため、印刷できませんでした。お申し込みいただいた方、申し訳ございません。

下記にてお申し込み下さい。

バックナンバー申込書 FAX送信先→0298-41-5682

お名前 FAX or TEL番号

ご住所(〒.....)

.....

Newsその後

★HARC Mercantile、警報の視覚化装置を販売開始！

アメリカ HARC社は、緊急自動車のサイレンに反応して、これを82dBでの警報音と4つのLED光シグナルで表示する装置を開発した。およそ300Mの距離からのサイレン(66dB)に反応することができる。

このEARS (Emergency Vehicle Detection System) は、デジタル信号処理技術を生かし、米国内のすべてのサイレンに反応できるという。279.95\$。

聴覚障害者が自動車を運転している時、近づいてくる救急車や消防車に気付かず、危険な思いをすることも多い。そうした経験の持ち主には最適かも？。

なお、米国内でGM社の自動車を購入の際、本装置を取り付ける場合、GM社が装置費用と取り付け費用を払い戻すことになっている。

日本では市販されていないので、購入の場合は、本誌310号、22ページを参照の上、米国より通信販売で購入することになる。また日本で使用できるかどうかは調べていないので、日本での動作保証はしない。



と、ここまでは「みみだより313号」の記事。その後、実際に車に装備して実際に走ってみました。少なくとも、日本の救急車・消防車に反応します。誤動作もなく正常に動作しました。おそらく、「周期性の音」とかでデジタル検出しているのでしょうか？。但し、私の耳で「聞こえた」と思ってから、装置が作動するまでの時間には変動があるように思いました。

2月下旬以降、実際に車に装備してテストしていただける方に、お貸しします。可能な方はご連絡下さい。車への装着は難しくはありませんが、センサーはトランクの上に貼り付ける必要があり、警報機はシガレットパワー(12V)を必要とします。なお車内の配線や使用説明は英文です。ご応募は編集部 FAX:0298-41-5682 まで。

カタログより.....

- ◆ 本製品は全米各州の緊急自動車すべてのサイレンに反応します。しかし、クラクションには反応しません。これは信号デジタル処理のためで、今日の電子技術の最新テクノロジーの成果です。センサー(マイク)はトランクの上に装着します。これはもっともサイレン音をキャッチするのに都合が良い場所だからです。このセンサーにより、周囲の環境・走行スピード・風の状況により異なりますが、おおよそ150mの距離の緊急自動車のサイレンに反応することができます。

字幕付き映画

流れ板七人 (東映)

日本語字幕付きプリント上映のお知らせ

流板とは己の料理の腕前に意地と誇りをかけて日本全国を渡り歩く料理人。知られざる板場の世界に踏み込んで、初めて本格的料理人の世界をスクリーンに映し出す豪華エンターテインメント。主演の松方弘樹をはじめ、いしだあゆみ、的場浩司、東幹久他多彩なキャストで新春の笑いと涙はおまかせ下さい。『流れ板七人』は1月15日より全国東映系で公開されます。この映画の日本語字幕付きプリントの上映を下記劇場で行いますので、ご鑑賞下さいますようお願い申し上げます。

尚、身体障害者手帳をご持参の方は、ご優待料金にてご入場いただけます。

(大人・学生(中学生以上)1000円、小学生800円)

また、付添いの方は一名様まで1000円にてご入場いただけます。

お問い合わせ先 東映株式会社映画営業部 飯塚

TEL:03(3535)7179 FAX:03(3535)7186

上映劇場	上映日程	電話番号	FAX番号
札幌 東映	1/26(日), 27(月)	011(231)2568	011(231)2569
旭川 東映	2/2(日), 3(月)	0166(22)7207	0166(22)7207
丸の内 東映	2/1(土), 2(日), 3(月)	03(3535)4741	03(3563)1777
横浜伊勢佐木町東映	2/8(土), 9(日)	045(261)3800	045(253)6838
名古屋 東映	1/24(金), 25(土), 26(日)	052(971)3440	052(971)4012
豊橋 東映	1/31(金), 2/1(土), 2(日)	0532(53)0515	0532(53)0515
富山 東映	2/8(土), 9(日)	0764(21)3216	0764(21)3419
京都大宮東映	1/17(金), 18(土)	075(841)3714	075(841)3059
梅田 東映	1/24(金), 25(土)	06(345)7096	06(345)7296
神戸三宮東映	1/31(金), 2/1(土)	078(391)6757	078(391)6758
広島 東映	2/7(金), 2/8(土)	082(221)0965	082(221)0966
福岡 東映	1/20(月), 21(火)	092(281)0757	092(281)0776
佐賀 東映	2/2(日), 3(月)	0952(24)3904	0952(24)3904
長崎 東映	1/29(水), 30(木)	0958(22)2482	0958(24)5517
熊本 東映	1/24(金), 25(土), 26(日)	096(356)7393	096(322)5924
大分 東映	2/6(木), 2/7(金)	0975(34)7051	0975(34)7051
鹿児島 東映	2/10(月)~2/14(金)	099(224)6358	099(224)6358

丸の内東映と横浜伊勢佐木町東映の上映時間は下記の通り

・・・ 11:40 13:55 16:10 18:25

313号続報

海外視察旅行のご案内

聴覚障害
児童生徒学生 サポートシステム

カリフォルニア視察日程(案)

今年の日本特殊教育学会で、自主シンポジウム「聴覚障害学生サポートシステムの確立をめざして」が開催されました。このシンポジウムを通して、聴覚障害児童生徒学生を取り巻く教育機関が抱える多くの問題や課題が明確化されました。この問題・課題をさらに掘り下げて研究したいと考え、今回、「聴覚障害児童生徒学生サポートシステム・カリフォルニア視察」計画を立てました。関心をお持ちの方の多くの皆様をご参加下さいますようお願い申し上げます。(一部抄)

・・・・・・コーディネータ：野村みどり(東京都立医療技術短期大学助教授)

<日程案>

2月23日	成田→サンフランシスコ
24日	バークレー教育委員会ヒアリング視察 ・フルインクルージョンの経緯・実態・課題 ・幼・小・中・高校視察 ・聴覚障害幼児・児童・生徒サポートシステム
25日	カリフォルニア大学バークレー校 ・障害学生プログラム視察 ・聴覚障害学生サポートシステム問題・課題
26日	サンフランシスコ市におけるヒアリング ・視覚・聴覚障害者のバリアフリー対策 移動
27日	トライポッド(TRIPOD)視察
28日	カリフォルニア州立大学ノースリッジ校 ・国立聾センター視察 ・聴覚障害学生サポートシステム実態・課題
3月1日	ロサンゼルス→成田

参加費用 259,000円。募集人員：30名(最少催行人員：20名)。

お問い合わせ・参加申し込みは、(株)トラスト(担当：宮本/中里/長)まで。

〒101 千代田区神田司町2-4-2 5F TEL:03-3251-5489 FAX:03-3251-5481

- ◆バークレー市：フルインクルージョンの先進地。普通学級に在籍する児童生徒に、専門の巡回教師によるサポートシステムを用意している。
- ◆サンフランシスコ市：バリアフリー環境では、アメリカの中でも先進的取り組みを行っている地域である。
- ◆トライポッド：0～13、14歳までを対象とした聾教育施設。約70人が在籍し、小・中学生は地区内の公立学校とトライポッドの双方に籍を置き、両者が連携して統合教育に取り組んでいる。

新刊図書

月刊 言語 特集「子どもたちのことばの障害」

収録は、子供の言語障害とその治療／西村辨作、難聴乳幼児のことばとコミュニケーション／中村公枝、小児失語症にみる言語処理過程の障害とその指導／進藤美津子、コミュニケーション障害児への語用論的アプローチ／大井学、コミュニケーション障害児へのマカトン法指導／斉藤佐和子、脳性麻痺の子とサウンズ アンド シンボルズ／飯田静子、発語の困難な子と会話エイド／小島哲也など。

中でも、コミュニケーション障害児へのマカトン法指導は近接領域として興味深く拝読させていただいた。聴覚障害者の“サイン”と共通する部分、異なる部分、さらにそれをシンボル化する過程は、聴覚障害児の絵カードにも似た取り組みとも思った。大修館書店発行「言語」第25巻、第12号（12月号）、820円。

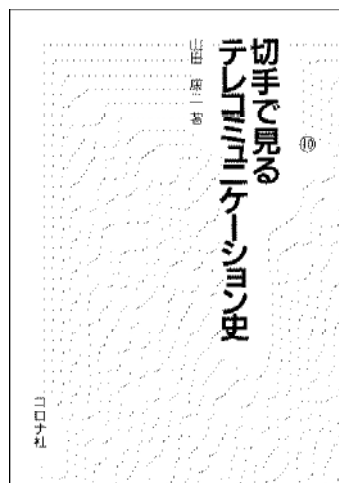


最近の読書から

切手で見るとテレコミュニケーション史

「テレコミュニケーション」ということばを聴覚障害の世界だけのものとは思っていなかったが、通信の始まりから光ケーブルに至る歴史を世界の切手から語るといっておもしろい著。通信・無線・電話機・テレビといったコミュニケーション機器について、233枚もの切手を通して説明されている。グラハム・ベルの切手あり、FAXを発明したエドエール・ブランの切手あり、楽しめる本だ。

山田康二著、コロナ社刊、1200円。



新刊図書

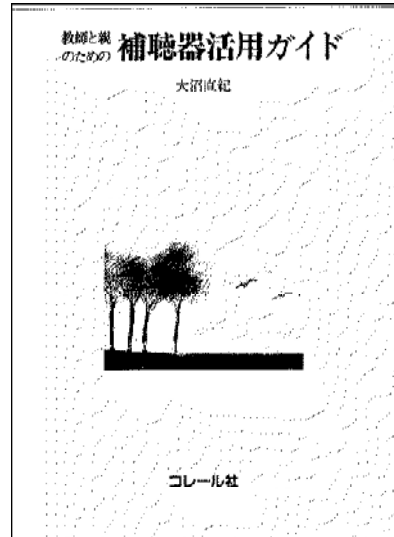
教師と
親のための

補聴器活用ガイド

待望の新書が発刊となった。補聴器に関する単発的な雑誌の特集号はあれど、本格的な集大成された本は少なかった。今回、筑波技術短期大学 教授 大沼直紀先生著の「補聴器活用ガイド」は、補聴器、特に子どもの補聴器に書かれた書として最も充実した内容を備えている。

以下、目次から・・・、

1. 聴覚障害と補聴器
2. 補聴器の機能
3. 補聴器適応のための聴力検査
4. 聴覚補償の教育の現状
5. 補聴器のフィッティング
6. 聴能の評価
7. 補聴器を活用した学習活動
8. 補聴器活用のための研修プログラム
9. 聴覚活用の新しい課題



学校の中でのオージオロジー「Educational Audiology」の必要性が叫ばれている。そうした中、まさに時節を得た格好の著である。ぜひ、学校等での研修用テキストとしてお使いいただきたい。

なお、近刊の「聴覚障害教育の革新」を併せて別紙の注文書でご紹介しますので、ご利用下さい。

近刊予定

全国難聴児を持つ親の会から「聴覚障害児の理解のために 第24集」が刊行されます。今回は、「**補聴援助システム**」ということで、私と大阪市立聾学校学校の中瀬浩一先生と共著で執筆いたしました。第21集「補聴器の上手な使い方」の続きとして、晴子さんの高校生生活を描いた物語編、物語編で出てきた機器について、順序立てて説明した解説編、福祉の手引きなどの資料編という構成です。3～4月には入手の方法などご案内できるかと思えます。ご期待下さい。